

New Products

キャビトンタッチ /デンツプライシロナ 〈マグネット式超音波スケーラー〉



マグネット式超音波スケーラー「キャビトンシリーズ」の新たなランナップとして“キャビトンタッチ”が3月22日、デンツプライシロナから発売されます。ワイヤレスフットペダルの採用やスケーリング時にフットペダルを踏み続ける必要がないタップオン機能、フットペダルを深く踏むことによりスケーリング出力を上げるブースト機能等を搭載。さらに従来のダイヤル式からタッチパネル式へと新機能を搭載した超音波スケーラーです。

【特徴】

- 従来のダイヤル式のものとは異なり、本体のタッチパネルで、パワーレベルを5～100まで設定することができます。また、よく使用するパワーレベルを3つスクリーンに登録することができ、対象物・部位に応じてワンタッチでパワーレベルを選択することができます。
- ハンドピース先端が360°回転式になっており、手首の位置を変えずに指先でチップの角度を変えることができます。口腔内全体へのアクセスが向上し、手首の負担を軽減します。
- 従来製品と比べ約30%軽量化されたハンドピースを採用。より快適なスケーリングが可能になります。

標準価格＝本体一式 363,000円

マイクロスポット AEL-100 /マイクロテック 〈LED 診療用ライト〉



マイクロテックから発売された“マイクロスポット AEL-100”は、角度が自由に調整できるフレキシブルアームタイプのLED診療用ライトです。軽量で、高照度で安定した明るさを維持します。診療用ユニットの補助ライトとして、また往診や検診等での持ち運びも便利です。

【特徴】

- 70,000Luxの高照度で、作業距離は20cm、照度調整やスポットサイズの調整が可能で照点範囲の明るさは均等です。
- 自然な明るさのホワイトLEDライトを採用。またライト寿命は50,000時間の長寿命です。
- 安定した5本キャスターのスタンドタイプ(約6kg)と、ユニットライトポールに固定するポールマウントタイプ(約3.5kg)の2種類を用意。診療スペースや用途に合わせて選べます。

標準価格＝スタンドタイプ 78,000円
ポールマウントタイプ 88,000円

AORA (アオラ) /サンデンタル 〈こども用LED付電動歯ブラシ〉



サンデンタルから発売されたLED付き電動歯ブラシ“AORA (アオラ)”は、LEDライトで口腔内を明るく照らしながら、16,000回/分の音波振動で赤ちゃんの歯磨きを優しくキレイに仕上げます。効率的に歯を磨くための30秒タイマー機能、2分間自動電源オフ機能付きです。

【特徴】

- 赤ちゃんの口に合った小さなブラシヘッドですみずみまで磨くことができます。また、手にフィットするハンドルグリップ形状で、母親磨きにも最適です。
- 30秒毎に“ブルッ”と振動するお知らせタイマーを内蔵し、2分間自動電源OFF機能により電池の節電ができます。
- 立てた状態で保管ができる自立タイプなので衛生的です。
- 軽くてラクラクの25gの軽量設計(単4形アルカリ乾電池1本含まず)です。
- 交換用ヘッドブラシは赤ちゃん用(ブラシ長さ8mm)とこども用(ブラシ長さ15mm)の2種類をラインナップ。

患者参考価格＝

本体+ブラシー式 1,680円(税別)
交換用ブラシ(2本入) 450円(税別)

My Recommendation

『グレースフィル』 〈ジーシー〉



標準価格＝グレースフィルパテ 3,600円
グレースフィルフロー各種 2,800円

4つのタイプであらゆる症例をカバー！

今回ご紹介させて頂く商品は、(株)ジーシーより発売されている『グレースフィル』です。この商品は、操作性・強度・耐摩耗性を兼ね備えあらゆる症例に対応したインジェクタブルレジンです。特徴としては、フロータイプでありながらペーストタイプと同等以上の物性、多角形ナノフィラー配合の為、研磨性・光沢の持続性を有し、操作性に優れ押し出し感やペーストの切れも従来品から改善されています。更にFSCテクノロジーにより表面修復にも使用できる高い強度と優れた耐摩耗性を実現出来ています。以上の様々な特性を持った商品となっております。

ご使用中の医院様では、「確かに従来品に比べシリンジの押し出し感が改善されているね。」とのお声も頂いております。種類もパテ・ゼロフロー・ローフロー・フローの4種類ラインナップが揃っていますので症例によっての使い分けをお勧めいたします。尚、キャンペーン期間中でもありますのでこの機会に是非お試し下さい。

久留米店 営業二課 田邊 貴裕

歯科医院経営を考える(486)

デンタル・マネジメント・コンサルティング
稲岡 勲

～ 事業承継の具体策 ～

ある歯科医院の事業承継に関与することになった。診療所の立地条件は地方都市の郊外に位置し、中心街から7kmほど離れた地域で、小さいマンションや民家が密集している下町といったイメージの場所である。院長の経営方針は歯周予防をメインの診療方針に加え、子供中心の矯正に力を入れてきており、収入もDr2人で9,000万円近く挙げている。医院経営に成功しているといってもよい経営状況である。息子の方は10年近く他の医院で勤務し4年近く前に帰ってきて父親の院長と一緒に診療を続けている。4年も一緒に診療を続けているのだから上手く交代できるように思うが、それがなかなか上手くいかない。事業承継が上手くいかない問題点の一つは一種の権力闘争の面があるからだと思う。それぞれの診療方針の違い、それに関連した設備投資への思い、診療の対象とする患者層の違い、スタッフに対する期待の違い等々悉く対立する状況にある。親が事業に成功していればいるほど、親自身も診療や経営に絶対的な自信を持っている。しかし息子の方はそういう親の診療や経営に不満を持ち批判的に見ている面がある。日頃の診療内容についてもキチンとルール通りに治療を進めていないとか、従業員に対して甘くなれ合いになっていると批判的に見ている面があり、反抗心からか院長の進めている矯正治療方法とは違う治療方法の矯正の勉強をしている。しかし父親の方にも問題がある。六十歳を超えているのに、老後資金を準備しておらず今後も働き続ける必要があること、また息子への不満をことあるごとに家族や出入りの業者や会計事務所に漏らし自分の考えが正しいことを公言したり、自分が育てた子飼いのスタッフを残しておきたいと思っていること等である。先ず共通の基盤として現在の院長の方針である歯周予防体制は少なくとも3年間は維持すること、従ってそれに従事する衛生士3人は継続して雇用することを確認したうえで、院長の退任とともに、一旦全員を解雇し退職金を支払う。その上で新しい院長が必要な職員を新規に採用するという方法を取る。ただスタッフが解雇を受け入れるかどうかや、期待しているスタッフが残ってくれるかどうかは未知数である。いずれにしても息子の理想とする診療と父親の現実の診療とのせめぎ合いが当分続くことになるが、どこかに落としどころを探る日が続くことになると思う。

(つづく)

※玉手ニュース 2018年 3月号より転載。

New Books & Video

★今週の新聞

『 聞くに聞けない歯周治療 100 』

『 聖アポロニア探訪譚 』



歯科疾患のなかでとりわけ罹患率の高い歯周病を取り上げ、いまさら知らない、教えてほしいとはなかなかいえない初歩的なことから、全身疾患との関連などの応用まで、多岐にわたる100項目をおよそ60名の執筆者が端的にまとめて解説！「聞くは一生の恥」とならないための、歯科医師にも歯科衛生士にもうれしい一冊。

- 総監修＝若林 健史
- 監修＝小方 頼昌
- 編集委員＝鎌田 征之／稲垣 伸彦
- 出版＝デンタルダイヤモンド社
- 価格＝8,500円＋税



歯痛を患う者、歯に関するあらゆる問題の守護聖人として崇敬されてきた聖アポロニア。その遺物や祭っている教会、祠などはいまなお欧州各地にみられ、それらを追ったフランスの書籍を和訳したものが私版本『聖あほろにあ記』（1941年）である。本書はその新訳とともに、著者が多くの縁に導かれて独自に欧州を巡った現代版『聖あほろにあ記』を収載。知的好奇心をくすぐる一冊。

- 監著＝三浦 不二夫
- 執筆＝鈴木 設夫
- 翻訳＝平岡 忠
- 出版＝デンタルダイヤモンド社
- 価格＝3,600円＋税